

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

祖父の家の机には、いつも一本の万年筆が置いてあった。黒い軸に、金色の細い線が一本入っている。子どものころ、私はそれをさわらせてもらえなかった。「これはおじいちゃんの仕事の道具だから。」祖父はそう言って、引き出しにしまった。

祖父は長いあいだ、町の小さな印刷所で働いていた。人の書いた文字を、機械で刷る仕事だ。「人の字を刷るのが仕事なのに、自分の字は下手でね。」祖父はよく笑いながら言った。それでも、手紙はいつも万年筆で書いていた。中学に入った春、祖父が入院した。見舞いに行くと、祖父は私に、あの万年筆を差し出した。

「もう、手が震えて書けんから。」

私は受け取れなかった。受け取ってしまえば、祖父がもう手紙を書かないと認めることになる気がした。「退院したら、また使うでしょう。」私がそう言うと、祖父は少し黙ってから、万年筆を枕もとに置いた。

夏の終わりに、祖父は退院した。手の震えは残ったが、元気にはなった。私は、あの万年筆のことを、それきり口にしまった。

秋になって、私は学校の作文で賞をもらった。祖父に見せに行くと、祖父は作文を読み終えてから、引き出しを開けた。出てきたのは、あの万年筆だった。

「これで、名前を書いてみなさい。」

私は、作文の表紙の名前の横に、もう一度自分の名前を書いた。ペン先が紙をひっかく音がした。字は、少し曲がった。

「下手だな。」祖父は笑った。「おじいちゃんに似た。」

私は、万年筆をそのまま持って帰った。今度は、受け取れた。祖父が渡したかったのは、書けなくなった道具ではなく、書く人を続けてほしいという気持ちだったのだと、その時になって、やっと分かったからだ。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「私は受け取れなかった」とありますが、その理由を「」から「」につながるように、本文中から四十字以内で抜き出さない。

受	け
取	っ
て	し
ま	え
ば	、
祖	父
が	も
う	手
紙	を
書	か

問二 「祖父は少し黙ってから、万年筆を枕もとに置いた」とありますが、このときの祖父の気持ちとして最も適切なものを、次のを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私に断られて腹を立て、二度と渡すまいと決めている。

イ 私の気持ちを察して、無理に渡すのをやめ、時を待つことにしている。

ウ 退院できると言われて、すっかり安心している。

エ 万年筆をどこに置けばよいか迷っている。

イ

問三 「私は、あの万年筆のことを、それきり口にできなかった」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 万年筆にもう興味がなくなったから。

イ 祖父が元気になったので、万年筆をもらう必要がなくなったから。

ウ 万年筆の話をすると、祖父が書けなくなったことに触れてしまう気がしたから。

エ 祖父が万年筆をなくしてしまったから。

ウ

問四 祖父が万年筆を渡すことで本当に伝えたかったものを、「私」は何だと分かりましたか。「」という気持ち「」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出さない。

書	く	人	を	続	け	て	ほ	し	い					
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--

問五 春には受け取れなかった万年筆を、秋には「受け取れた」のはなぜですか。「私」の変化が分かるように、五十字以内で説明しなさい。

万	年	筆	を	、	祖	父	の	衰	え	の	し	る	で	は	な	く	、	書
れ	た	か	ら	。														

【中I】国語 文章問題 物語文 3 答えと解説

問一（二十点） 答え：受け取ってしまえば、祖父がもう手紙を書かないと認めることになる気がした

解説：直後の一文「受け取ってしまえば、祖父がもう手紙を書かないと認めることになる気がした」が根拠。万年筆を受け取ることが、祖父の衰えを認めることにつながる。

問二（二十点） 答え：イ

解説：「少し黙ってから」に、私の言葉を受け止めた間がある。秋に改めて渡していることから、あきらめたのではなく待っていたと読める。

問三（二十点） 答え：ウ

解説：病院で受け取れなかった理由（祖父の衰えを認めたくない）が続いていると読む。「手の震えは残った」という一文が、その話題を避ける理由になっている。

問四（二十点） 答え：書く人を続けてほしい

解説：最後の段落の「祖父が渡したかったのは、書けなくなった道具ではなく、書く人を続けてほしいという気持ちだった」が根拠。

問五（二十点） 答えの例：万年筆を、祖父の衰えのしるしではなく、書く人を続けてほしいという願いとして受け取れたから。

解説：春の「認めることになる気がした」と、秋の「やっと分かった」を対にして書く。作文で賞をもらい、自分が「書く人」になったことが、きっかけになっている。

採点のポイント：① 春は、受け取ることが祖父の衰えを認めることだと感じていた ②

秋は、書く人を続けてほしいという祖父の気持ちだと分かった（二つそろって満点、一つなら半分）